

事務事業名	本町地区まちづくり整備事業	事業期間	2015 ~	年度	係内番号	08
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	連絡先	534	

政策番号	05	基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0102	施策の柱の名称 量的な拡大から質的な充実に配慮した土地利用の推進	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
		基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0201				道路ネットワーク形成の方針					
		実行計画	02	立地適正化計画	0000				複数の柱にまたがる事業					
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD									
予 算 事 業 名	本町地区まちづくり整備事業費				会計コード	01	款	08	項	03	目	07	事業	02
事務事業の概要	平成11年に策定された茅野市中心市街地活性化基本計画の中で、中心市街地領域に含まれている本町地区は、都市計画道路観音通線をはじめとする道路網整備にあわせた商店街の活性化が求められています。これからのまちづくりを考える上で、地元のまちづくり検討委員会を核として、地元と行政が一体となったまちづくりを進めていきます。													
現状と背景	本町地区は、茅野駅が出来る以前から周辺地域の人々が交流してきた歴史的には古い商店街であり、県道八子ヶ峰公園線を軸として栄えてきましたが、近隣への大規模店舗の立地等により商店街は疎密となっています。この地域の賑わいを再生するためには、現道の整備を含めた街並みの再編が重要であると考えます。													
目的	受益者	市民、地域住民、道路利用者												
	対象	市民、地域住民												
	意 図	事業化の可能性、方向性を探り、道路や沿道整備を絡めたまちづくりを推進していきます。												
手段・方法	茅野市都市計画マスタープランのもと立地適正化計画を策定し、居住誘導区域に定められている本町区でのまちづくりを積極的に行います。人口減少の中にあっても人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう検討していきます。具体的には、本町地区住民の合意形成と事業手法の決定を、関係機関と連携を図りながら進めていきます。													
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		1	魅力あるまちづくりの検討	本町まちづくり活動	回	年間のまちづくり会議の開催回数				5				
		2												
	3													
変更履歴														
成果指標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
	1	計画の策定	計画策定進捗率	%	計画策定の進捗割合				100					
	2													
変更履歴														

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		事業費等(a)	円	5,956,000	6,612,469	18,798,000		
		国庫支出金	円					
		県支出金	円					
		地方債	円					
	一 般 財 源	その他特定財源	円					
		一般財源	円	5,956,000	6,612,469	18,798,000		
		目標	回	5	3	3		
	活 動 指 標	本町まちづくり活動	実績	回	5	2		
			達成率	%	100.00	66.67	-	-
		-	目標	-				
			実績	-				
		-	目標	-				
			実績	-				
成 果 指 標	計画策定進捗率	目標	%	100	100	100		
		実績	%	100	100			
	達成率	%	100.00	100.00	-	-		
	-	目標	-					
		実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-		
備 考								

事務事業名		本町地区まちづくり整備事業		事業期間	2015 ~	年度		係内番号	08	
担当部署		都市建設部		都市計画課		都市計画係		連絡先	534	
事後評価 （CHECK） 改革・改善の方向性（ACT）	項目	2018年度（H30）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度				
	（成変果）	この地域の賑わいを再生するためには、現道の整備を含めた街並みの再編が重要である。2017年には区会にて現道（県道八子ヶ峰公園線）に都市計画道路を変更することが決定された。また、まちづくり活動によって、地元本町区のまちづくりに対する機運は高まりつつある。	都市計画道路の変更及び賑わいの再生については、現道（八子ヶ峰公園線）の沿線地権者及び関係者の合意形成が必要である。整備手法の検討において活用した、VR等のシミュレーションツールにより本町区のまちづくり計画の熱度は高まりつつある。							
	動指要標									
	因分									
	（析）									
	成果	本町まちづくり活動が、本町区の代表を中心に行われ、“本町のまちづくりの方向性”と“観音通線（本町商店街通り）のあり方”に関する意見が取りまとめられた。都市計画道路の変更に伴う、本町のあり方について、多方面から議論ができた。	現道（八子ヶ峰公園線）の沿線地権者等を対象にアンケート等の本町まちづくり活動を行い、まちづくりに関する意見が取りまとめられた。また、VRを活用し都市計画道路の変更に伴う今後の本町のまちづくりの方向性について、議論ができた。							
	総合評価	2018年度の計画は目標通り策定されたが、あくまでも本町区の代表者によるものである。よって、2019年度は地権者を含めた検討を行い、計画の熱度を高める必要がある。	2019年度については、現道（八子ヶ峰公園線）沿線地権者等を対象にまちづくり活動を行い意見の取りまとめができた。2020年度は都市計画道路の変更案を提示し、都市計画道の変更に向けた地元の合意形成を行う必要がある。							
	課題									
	改革・改善の方向性（ACT）	成果 コスト	拡充 拡大	拡充 拡大						
	改善の方向性（ACT）	成果 コスト 方向性 内容 策び容	本町地区まちづくり活動には、沿線住民は勿論のこと市民の同意が欠かせない。広範囲な事業な上に、多くの権利者が絡むこととなるため、シミュレーションツール等を活用し、早期の合意形成を図りたい。シミュレーションツール活用にあたっては、新たなコストが見込まれるが、当事業を分かりやすく関係者へ伝える手法として導入を検討している。また、コスト削減としてws等ではコンサルに異存することなく、職員が積極的にファシリテート役を行い人件費削減に努めたい。	都市計画道の変更については、広範囲な事業であり多くの地権者や関係者の同意が必要である。そのため、2019年度に作成した、VRや模型をさらに活用し、地権者や関係者にわかりやすくイメージしてもらい、都市計画道の変更案についてご意見をいただきながら、合意形成を図りたい。コスト削減としては、2019年度に作成したVRを職員が、加工等を行い市有財産の活用を図りシミュレーションツール等に係る経費の削減を行う。						
作成担当者	宮坂 悠哉	東城 昭紀								
最終評価責任者	岩崎 研二	岩崎 研二								
最終評価年月日	2019.5.17	2020年6月30日								

事務事業名	茅野駅西口駅前広場周辺整備事業	事業期間	2018 ~	年度	係内番号	09
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	連絡先	534	

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0102	量的な拡大から質的な充実に配慮した土地利用の推進		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			実行計画	02	立地適正化計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	茅野駅西口駅前広場周辺整備事業費	会計コード	01	款	08	項	04	目	05	事業	04
-------	------------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 茅野市都市計画マスタープラン及び茅野市立地適正化計画では、JR茅野駅周辺を「都市機能集約拠点」として位置づけ、駅を中心とした市民生活のための商業機能、人々の交流を促す交流拠点機能、観光都市の玄関としての機能の集積により人と情報が行き交う土地利用を図るものとしていることから、駅西口駅前広場周辺の再構築が急務となっている。また、都市機能誘導区域、居住誘導区域の中心拠点に位置し、茅野市の玄関口でもあることから、JR茅野駅周辺の土地利用及び上位計画で描くグラウンドデザインとの整合について検討するものとする。

現状と背景
 (どうして)
 茅野駅西口駅前広場は、1987年の茅野駅前第一種市街地再開発事業から30年以上の年月が経過し、施設の老朽化や使い勝手が時代の変化と共に顕著に現れてきている。また、上位計画や立地適正化計画に基づき、人口密度の確保、駅としての機能や賑わいの創出、茅野市の玄関口としてのおもてなしなど、駅周辺に課せられた課題を克服するため、茅野駅西口駅前広場周辺の再構築が重要であると考え。

目的
 対象
 受益者 (誰のために)
 茅野駅周辺を利用される市民、観光客など。
 対象 (直接働きかける)
 茅野駅周辺の施設及び土地利用。

意図
 (どんな状態にしたいか)
 『日々の生活の中におもてなしを育む安心・快適な茅野市の玄関口』を基本理念に「賑わいの創出」、[駅から広がるおもてなし]、[交通結節機能の充実]、[安心・快適な空間づくり]を目指す。

手段・方法
 (どうやって)
 立地適正化計画に基づき、茅野駅西口駅前広場周辺のリニューアル整備に向けた基本計画を策定し事業化する。このためには、地域からの意見も踏まえながら、今後20年間の将来像も考慮した専門的な内容を検討していく必要があることから、駅前広場に関する専門家、まちづくりに関する専門家、都市空間の賑わい創出に知見を有する者、地元有識者からなる「茅野駅西口駅前広場周辺リニューアル基本計画策定有識者委員会」を発足し、検討・検証を行い基本計画へ反映していくものとする。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	西口駅前広場周辺の再構築	有識者委員会	回	年間の有識者委員会の開催回数
	2		関係団体への説明会	回	年間の関係団体への説明会の開催回数	6
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	整備計画の策定	計画策定進捗率	%	計画策定の進捗割合
	2	段階整備内容の実施	段階整備進捗率	%	今年度計画内容の実施	100
	変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	5,050,000	39,425,638	60,679,000
財源内訳	国庫支出金	円		19,525,000	30,105,000		
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	5,050,000	19,900,638	30,574,000		
活動指標	有識者委員会	目標	回		5		
		実績	回		5		
		達成率	%	-	100.00	-	-
	関係団体への説明会	目標	回			6	
		実績	回				
		達成率	%	-	-	-	-
-	目標	回					
	実績	回					
	達成率	%	-	-	-	-	
成果指標	計画策定進捗率	目標	%		100		
		実績	%		100		
		達成率	%	-	100.00	-	-
	段階整備進捗率	目標	%			100	
		実績	%				
		達成率	%	-	-	-	-
備考							

事務事業名	茅野駅西口駅前広場周辺整備事業		事業期間	2018	～	年度	係内番号	09
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係			連絡先	534	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果） 動指 要標 因分 ）析		意見交換、アンケート調査の結果を基に、構想検討委員会において、現状の課題や問題点についてWSを重ねることで、課題の整理が行われ、基本計画策定に向けた、構想案がまとめられた。	H30年度に策定した構想案について、専門家を交えた検討を行い「基本計画」を策定した。都市計画や交通に関する専門家の意見に加え、地域からの意見も踏まえながら今後20年間の将来像も考慮した理想系の計画を提示した。		
価値（総合評価）	成果	構想検討委員会を開催して、検討を重ねることで、課題や問題点の整理が出来、基本計画策定に向け、現状把握が出来て、構想案の叩き台が作成出来た。	駅前広場の基本計画は勿論のこと、東西自由通路の改修計画についてもJR長野支社と調整を図ることができた。将来を見据えた計画を掲げたことで、集合住宅や予約制駐車場といった多角的な視点に基づく駅前広場づくりが進行している。			
	課題	構想検討委員会で作成した構想案を叩き台に、基本計画を策定する段階になるが、基本計画を作成するには、学識経験者からなる有識者委員会を設置してより専門的な観点から議論していただく必要がある。	多角的な視点に立脚した計画づくりでは、多数の関係者を交えた協議が必要になる。交通事業者や商業者等の間では、利害関係も生じてくるため、関係機関との慎重かつ緻密な協議が求められる。			
改革	成果	拡充	現状維持			
	コスト	拡大	現状維持			
改善の方向性（内容）	改善の方向性（内容）	西口駅前広場周辺の整備には、行政だけの主導では難しいので、UR都市機構との協定により、まちづくり支援や、専門家のマッチングなど、民の力も借りながら、事業の円滑、コスト削減を図り計画策定を進めている。しかし、整備計画が策定出来、国の交付金が事業化されるまでは、限られた補助事業での作業になるため、単費の割合は多くなると見込まれる。	令和元年度は国交省所管「官民連携基盤整備推進調査費」を活用し、令和2年度は内閣府所管「地方創生推進交付金」を当事業で活用する予定でいる。また、令和3年度から令和7年度は国交省所管「都市構造再編集中支援事業」を活用し5年間のパッケージの中で事業を進めていく予定でいる。いずれの事業も年度ごとの成果が求められるため、駅利用者や関係機関と調整を図りながら、確実な業務進行を行う。このため、包括協定を締結しているUR都市機構とはこれまで以上に連携を強化する。			
作成担当者	宮坂 悠哉	宮坂 悠哉				
最終評価責任者	岩崎 研二	岩崎 研二				
最終評価年月日	2019.5.17	2020.6.30				

事務事業名	宮川茅野地区まちづくり整備事業	事業期間	2009 ~ 2019 年度	係内番号	07
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	連絡先	532

政策番号	05	基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0102	量的な拡大から質的な充実に配慮した土地利用の推進	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高	
		基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0201	道路ネットワーク形成の方針			
		実行計画	02	立地適正化計画	0000	複数の柱にまたがる事業			
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称			
予 算 事 業 名	宮川茅野地区まちづくり整備事業費				会計コード	01 款 08 項 03 目 07 事業 01			
事務事業の概要	宮川茅野地区約1.7haを土地区画整理事業によって整備を行ったが、この事業により都市計画道路上川橋線を整備するとともに、区画道路及び公園等の基盤整備をして、土地の有効利用を促進し、安全で快適な環境整備を図り活力ある魅力的なまちづくりを再構築する。								
現状と背景	現在の宮川茅野地区は、商店活動が著しく停滞し、まち全体の活力が低下している地域である。								
目的	受益者	権利者及び周辺住民と、この地域を訪れる市民。							
	対象	宮川茅野地区土地区画整理事業地内（1.7ha）の権利者。							
	意図	古くからの歴史と文化の面影を色濃く残すまちであるため、その歴史的資産を活用し市街地の再構築を進める。							
手段・方法	宮川茅野地区まちづくり協議会との協議を重ね、案内板の意匠や配置について検討し随時整備を行う。また、上川橋線街路整備事業の進捗に合わせて、街路灯を設置して順次供用を開始する。								
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値			
		1	宮川茅野地区まちづくり協議会の開催	協議会の開催数	回	年間の宮川茅野地区まちづくり協議会の開催	2		
		2							
	3								
	変更履歴								
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値			
1	宮川茅野地区まちづくり整備事業の進捗	整備事業進捗率	%	整備進捗割合	100				
2									
変更履歴									

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	2,691,155	19,039,510	3,683,000			
		国庫支出金	円	470,000	5,730,000				
		県支出金	円						
		地方債	円		11,300,000				
	その他特定財源	円							
	一般財源	円	2,221,155	2,009,510	3,683,000				
	活 動 指 標	協議会の開催数	目標	回	2	2	2		
			実績		3	1			
			達成率	%	150.00	50.00	-	-	-
		-	目標	-					
			実績	-					
			達成率	%	-	-	-	-	-
	成 果 指 標	整備事業進捗率	目標	%	100	100	100		
			実績		25	100			
達成率			%	25.00	100.00	-	-	-	
-		目標	-						
		実績	-						
		達成率	%	-	-	-	-	-	
備 考									

事務事業名	宮川茅野地区まちづくり整備事業		事業期間	2009	～	2019	年度	係内番号	07
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係				連絡先	532	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果動指要標因分）析		本事業は、五箇年計画で事業完了を目指している。本年度までに、88%完了予定のところ、78%が事業完了している	本事業は、五箇年計画で最終年度であり、100%が事業完了している。		
価値	成果	県施行事業区間と同一現場外については、協議会を順次進め、地元調整が図れ、計画通り事業が進められた。	協議会を順次進め、県施行事業区間、同一現場外ともに協議会等を順次進め、計画通り事業が進められた。			
	総合評価	県施行事業区間と同一現場のため、県の実情に事業進捗が左右される。（本年度、7割の事業費を県施行事情により繰り越す。）	県施行事業区間と同一現場のため、県の実情に事業進捗が左右されたが、本年度事業が完了となる。			
課題	課題					
	課題					
改革	成果	拡充	拡充			
	コスト	拡大	拡大			
改善の方向性	改善の方向性の内容	2019年度で事業完了。但し、2020年度事業効果事後評価委託を実施予定。コストは、R元年度交付金事業が完了するため、事後評価調査を単費で実施することから増となる。	2019年度事業完了。但し、2020年度事業効果事後評価委託を実施。コストは、R元年度交付金事業が完了したため、事後評価調査を単費で実施することから増となる。			
策	策					
作成担当者	黒澤 俊彦	東城 昭紀				
最終評価責任者	岩崎 研二	岩崎 研二				
最終評価年月日	2019.5.17	2020.6.30				